

医師養成事業奨学生着任・勤務中です 総合水沢病院外科医 村澤 哲也

2021年4月1日より奥州市総合水沢病院で、常勤外科医として勤務しております村澤と申します。

医師養成奨学生で常勤医師として勤務するのは私が最初とのことであり、多数の方々から「本当に奨学生が来るとは思っていませんでした！」と言われました。



出身は三重県で、医学部は神奈川県、卒業後は京都府で外科医をしており、東北地方での生活は初めてです。

奥州市での暮らしで印象深いのは、食物の新鮮さと降雪量です。産直販売の野菜や果物はどれも新鮮で大きく育ち（かつ安価）、どの食材もととても美味しく、食の豊かな土地だと実感しています。お陰で料理も楽しくなりました。

昨年の降雪量は平年より多いとのことでしたが、私としては町がゲレンデと錯覚するほどの雪景色でした。

折角なのでこの雪を楽しもうと思い、ひめかゆスキー場（リフト料金やレンタル料金が良心的で温泉もあり）へ行き、スキー講習でスキー板の履き方から教わり、その後は何とか一人で滑れるようになりました。

そのひめかゆスキー場は、今年から閉鎖されてしまい残念です。

私の専門は大腸肛門外科ですが、外科一般を手術も含め幅広く診療させて頂いております。

また、現在他院で消化器内視鏡研修中であり、今後の診療範囲に内視鏡治療も視野に入れております。このように研修等が

比較的自由に可能なところが、当院の良い点だと思います。

医師養成奨学生の皆さんが総合水沢病院へ勤務され、仲良く勤務できる日を楽しみにしております。

岩手県内の新型コロナウイルス感染の状況

10月26日現在の新規感染者数は8,729人、累計で117,212人です。

死亡者数は9人増えて累計で202人です。

年度	2年度	3年度			3年度計	4年度											
月	2年度	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	3年度計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計		
件数	621	1050	1000	11	14773	17642	9353	7096	3336	16568	36524	17344	8729		117212		
死者数	30	16	6	1	24	47	8	6	5	13	54	30	7		202		

大谷翔平選手の成績ボード(R4. 10.26 現在)

打者 打率 273 本塁打 34 打点 95 盗塁 11
投手 勝利 15 敗戦 9 防御率 2.33 奪三振 219

10月1日(2日) エ軍は、大谷選手と来期1年3千万ドル(約43億5千万円)契約で合意したと発表
10月5日(6日) 今季最終戦で3番・投手兼DHで出場し MLB 史上初の投手と野手での規程到達を達成

大谷翔平が達成「ダブル規定到達」って何?

162 投球回&502 打席の価値は、チーム主力の証です

投手の「規定投球回」：チームの試合数×1イニング(162 投球回)と定義し、最優秀防御率のタイトルを獲得するために必要です。

打者の「規定打席」：チームの試合数×3.1(502 打席)と定義し、首位打者などのタイトルを獲得するために必要です。それだけ試合に出続けて主力として存在した証であり、大谷は投打2つの項目での達成の価値は凄まじいものです

『SYOHEI ニュース』は市医師養成事業関係者の情報紙です。

令和4年10月27日発行 奥州市医療局医師確保推進室
〒023-0053 奥州市水沢大手町3-1 TEL0197-25-3833

※ 奥州市医療局HPにバックナンバーを掲載しています。

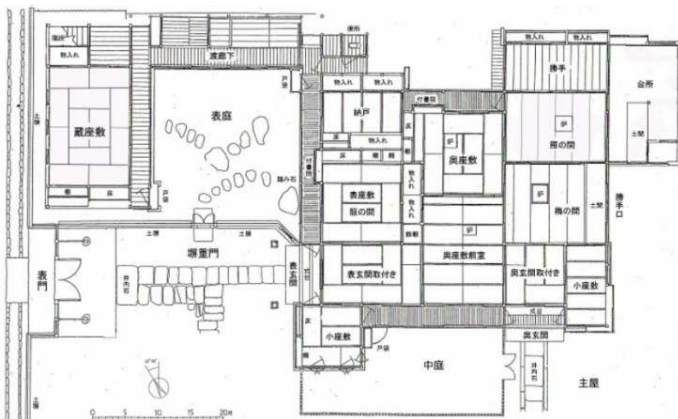
旧高橋家住宅

国指定重要文化財(指定日:平成 23(2011)年 6 月 20 日)

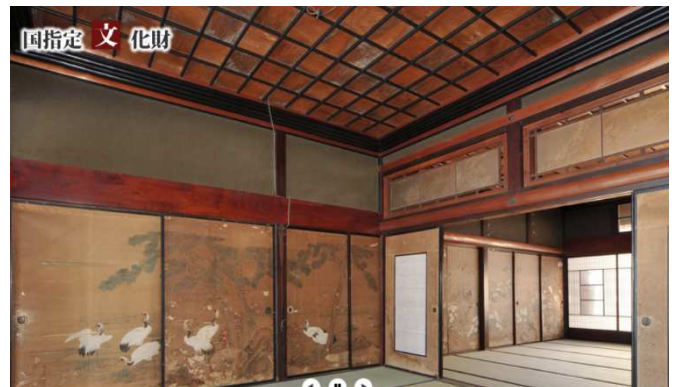
水沢伊達城下南口の袋町東端、七軒丁に配置された御不断組から 7 代 喜惣太が士分に取り立てられ、東大畑小路(現大畑小路)へ屋敷替えとなった高橋家が居住した近代和風住宅です。明治 21 年(1888 年)の上棟で、唐破風造りの式台玄関を構えた豪壮な外観や、江戸時代から続く武家住宅の平面構成に倣いながらも、中国趣味を基調とした高価な材料と障壁画による優れた室内意匠をもち、かつ東北地方へ煎茶席の影響が及んだことも示す極めて重要な近代和風住宅です。表門や蔵座敷も保存され、主屋は近代らしい自由で創意に富んだ意匠になっていて、明治期の東北地方における豪奢な近代和風住宅のひとつとして貴重な建物であり、同時期の素封家の屋敷構えがよく残されています。主屋、座敷蔵、土蔵、東板倉、西板倉、金庫蔵、表門で構成され、土塀、塀重門等が付随します。



主屋外観



旧高橋家住宅(間取り図)



主屋内観



「龍の間」の天井画
(水沢出身の南宗派画家 菅原竹侶作)

最も格式の高い表座敷「龍の間」は、幕末から明治・大正期に流行した煎茶席において好んで使用された唐木(とうぼく)が使用されています。

武家住宅の平面構成を踏襲しながらも、中国趣味を基調とした高価な材料と障壁画による優れた室内意匠をもち、かつ東北地方へ煎茶席の影響が及んだことを示す近代和風住宅です。

通常非公開建造物ですが、日高火防祭の本祭当日(4 月 29 日)に外観のみ公開しています。

問い合わせ先: 武家住宅資料館 Tel: 0197-22-5642